

APEC 女性と経済フォーラム ハイレベル政策対話(HLPD)における 岡田内閣府副大臣スピーチ

【序言】

議長。ありがとうございます。

宋秀岩（ソン・シュウイエン）、国務院婦女児童工作委員会副主席、中華全国婦女連合会副主席・第一書記、及び尊敬すべき代表団の方々：

APEC 女性と経済フォーラム、閣僚級対話において、発言の機会を与えていただき感謝いたします。

さらには、この賞賛すべきフォーラムを主催していただきました中華人民共和国政府に敬意を表したいと思えます。

【日本における女性活躍推進の成果】

昨年インドネシアで開催された本フォーラムにおいて、森まさこ男女共同参画担当大臣から、日本の女性の活躍推進に関する取組について御説明しました。

安倍内閣では、ウーマノミクスを成長戦略の中核として位置付け、女性が輝く社会づくりのための具体的な取組を進めてまいりました。その取組については、バリで行われた当フォーラムで森大臣が演説した際に、各エコノミーの閣僚から深い感心をいただいたように、国際的にも大きな注目を集めています。

本日は、まず、成長戦略の策定から一年が経過した成果の一端について、御紹介いたします。

我が国では、女性の経済への参画に課題が残されています。安倍総理自ら先頭に立ち、経済団体に対し女性のリーダーシップ拡大に向け要望を行いました。その結果、企業における女性管理職が増加傾向にあり、2012年6月の6.9%から、2013年6月には7.5%に拡大しました。

また、女性（25歳～44歳）の就業率も改善し、2012年の68%から2013年には69.5%になっています。

このほかにも、女性の経済への参加を促進するため、保育所など育児施設をすべて

の希望者が利用できるようにする「待機児童解消の加速化」や、育児休業期間中の給付の充実など、成長戦略に基づく取組を着々進めています。

【更なる進化に向けて】

さらに、今年の年央には、企業における意思決定層への女性の登用の促進、男女がともに豊かな生活とキャリアアップを両立できる職場・社会づくりなど、成長戦略をより進化させ、「女性が輝く日本」をつくるための具体的な取組を取りまとめ、強力に取組を進めることとしております。

こうした日本のウーマノミクスの取組及び成果が、各エコノミーの皆様が取組を進めるうえで、参考になれば幸いです。

【APEC での今後の取組】

さて、ここで私は、APEC の女性と経済に関する取組を加速化する上で、いくつかの提案をしたいと思います。

日本は、APEC 域内において、「サンフランシスコ宣言」を更に発展させるため、「女性のリーダーシップの向上」に焦点を当てた取組を行ってまいりました。

2012年3月には、「APEC 横浜フォーラム；女性とリーダーシップ」を開催し、また、昨年のバリ島での本フォーラムでは、その宣言文において、企業等における女性の活躍推進の取組を「見える化」することを提案し、APEC 域内で取り組むべき事項として採択されたところです。

さらに、本年のAPEC 事業として、APEC 域内で女性の活躍する企業を応援し、その取組を「見える化」する「女性活躍推進企業 50 選」の調査を実施する予定です。この調査を実りあるものとするため、各エコノミーにおかれましては、女性の活躍推進に真摯に取り組んでいる企業の選定など、前向きにご協力いただければと考えています。

さて、日本国内においては、女性のリーダーシップ拡大に向け、2020年までに指導的地位に占める女性の割合を30%という目標を掲げています。また、各エコノミーにおいても、それぞれに目標を掲げて取組を行っています。APEC 域内においても、経済活動への女性の参画が経済成長への大きな原動力となるとの認識を新たにし、エコノミーの取組を促進するため、APEC 女性と経済フォーラムとして、女性の管理的職業従事者の割合を高める取組を行うよう提案したいと思います。

日本としては、女性のためのいわゆる「STEM教育」(STEM: Science、Technology、Engineering、Mathematics) が雇用や女性の活躍を促進するに当たっての重要な鍵であり、この教育の促進が経済成長への原動力ともなりうると認識しています。このため、APEC 地域における「STEM教育」の現状及びその促進による経済的な効果に関する研究を開始したいと考えています。

また、女性のリーダーシップについては、経済成長における中核となるだけではありません。2011年に我が国で発生した東日本大震災では、被災地において、一人ひとりの女性が、救助・救援、医療及び消火活動はもちろんのこと、その後の復旧・復興等における担い手となっています。

日本は、今年3月の国連婦人の地位委員会において、災害復旧・復興における女性のリーダーシップを促進する決議を提案し、多くの御賛同を得て採択されました。

APEC 域内においても、地震や、台風、水害等の自然災害により、大きな被害を受けているエコノミーがあります。自然災害からの復旧・復興における我が国の女性の活躍事例を共有するような取組も行っていきたいと考えています。

(お手元にも配布しておりますが、) 東日本大震災を始めとした過去の災害対応における経験を踏まえて、男女共同参画の視点から、防災・復興を進めていくための「指針」についても、是非ご参考にしていただきたいと思います。

【終わりに】

最後になりますが、来年は、ここ北京で第4回世界女性会議が開催され、現在の女性の地位向上に関する国際的な指針ともいうべき「北京宣言及び行動綱領」が採択されてから、20年の大きな節目を迎えます。

世界女性会議としては初めて、アジアの地で開催されたこの北京で、女性の活躍を更に推進するための議論が行われ、その取組状況や課題を明確にすることは、大変時宜を得た、意義のあることと思います。

本日の会合の成果は、各エコノミーにおいて、APEC 首脳の成長戦略に基づく、女性の経済参加の促進のための具体的な取組に繋がるものと期待いたします。

来年はフィリピン共和国が APEC 議長を務められます。

フィリピン共和国が今回の議論を踏まえて、「女性と経済」の活動を継続されることを願います。我が国としても、可能な限り協力してまいります。

ご清聴いただき感謝いたします。